

焼酎日記

五 杯 目

春風にのって、

南薩摩へ。

やさしい陽射しにさそわれた週末、友人と南薩摩路をドライブ。友人は上海勤務の元国際線CA。薩摩隼人に嫁ぐために、はるばるやってきたステキな女性だ。鹿児島市内からは県道20号の錫山信号を左に折れ、川辺ダムを通り抜ける。ここは古い火山のような山々が連なうた雄大な絶景が続く。天才ピアニスト、キーシンがダイナミックに弾くシューマン(リスト編曲)の「献呈」が流れると、渓谷との美しい調和に私の気分も完全なオフモードへ切り替わった。

枕崎の焼酎蔵「明治蔵」に立ち寄ってみる。白木の壁には老舗酒蔵の趣が漂い、足を二歩踏み入れると芋焼酎の甘い香りがふわ〜と漂う。サツマ芋の選別作業から始まって焼酎造りの全容が見学できる。



杜氏さん達がかめ壺に芋を入れて力強くかき混ぜている寡黙な姿は、お酒の神様が宿っているのか、なにか神聖なものを感じるほど。天井には大きな梁、そして木作りの蒸溜器が並ぶ。包み込む木のぬくもりは、ヨーロッパの街並みにみる「築百年以上です」って佇まいを醸し出し、今も静かに呼吸しているようだった。

さて、今夜は中華の四川料理(彼女は独身最後の晚餐)。上海では芋焼酎人気が高く、キープできるお店もたくさんあるようだ。杜氏の里、黒瀬にちなんだ「黒瀬」の水割りとプリップリッの海老チリソースに舌鼓。辛味と絡んでウマ〜い。ガールストークにも花が咲いた。春一番の休日でした。

Natou